

倶多楽の火山活動解説資料（平成30年12月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図2-②、図3）

7日に日和山の西側で一時的に地震が増加しました。地震の発生前後で倶多楽の地殻変動及び噴気の状態に変化は認められませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2-③）

GNSS¹⁾連続観測では、2017年7月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられています。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

今回の火山活動解説資料（平成31年1月分）は平成31年2月8日に発表する予定です。



図 1 倶多楽 南南西側から見た日和王山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
(12月19日、414m山監視カメラによる)

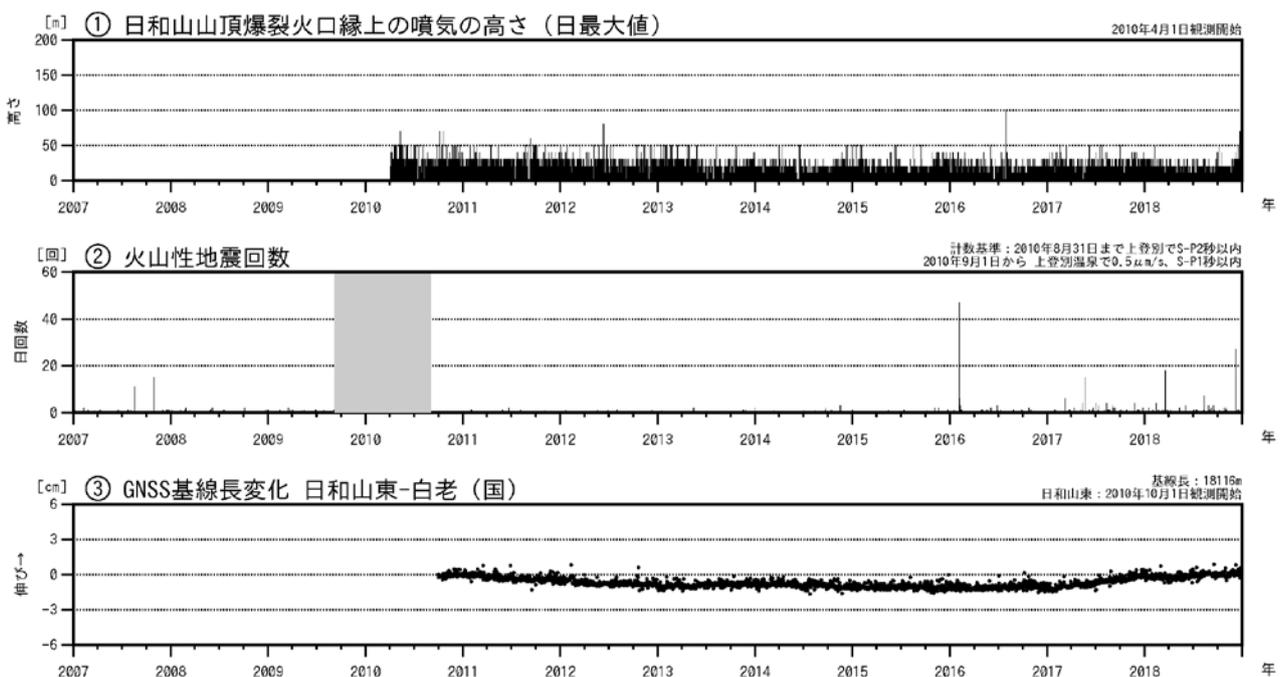
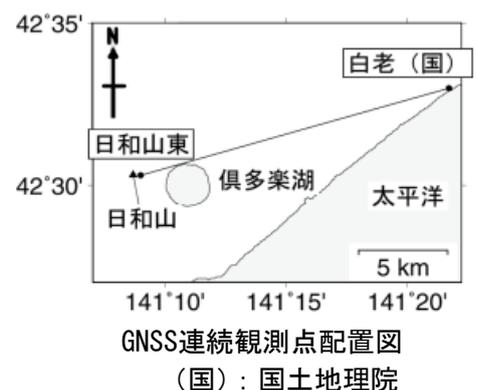


図 2 倶多楽 火山活動経過図 (2007年 1 月～2018年12月)

- ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ③のGNSS基線は「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップを補正しています。
- ・③のGNSS基線ではわずかな伸びがみられていますが、表面現象や地震活動に変化は認められません。



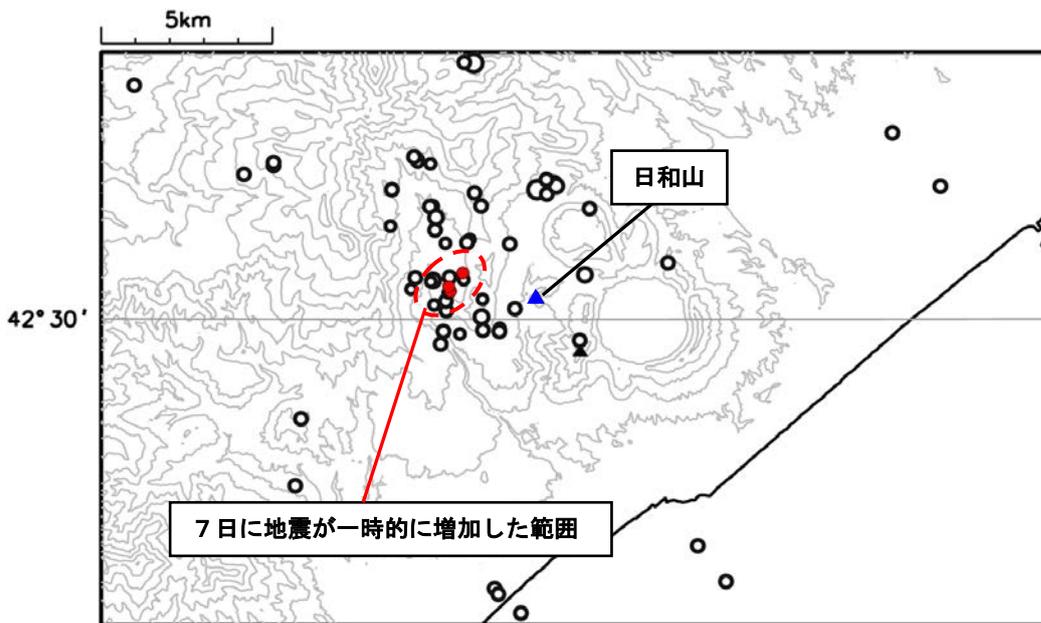


図3 倶多楽 広域地震観測網による山体周辺の地震活動
(1997年10月～2018年12月、M \geq 0.8、深さ10km以浅)
○印：1997年10月～2018年11月の震源
●印：2018年12月の震源

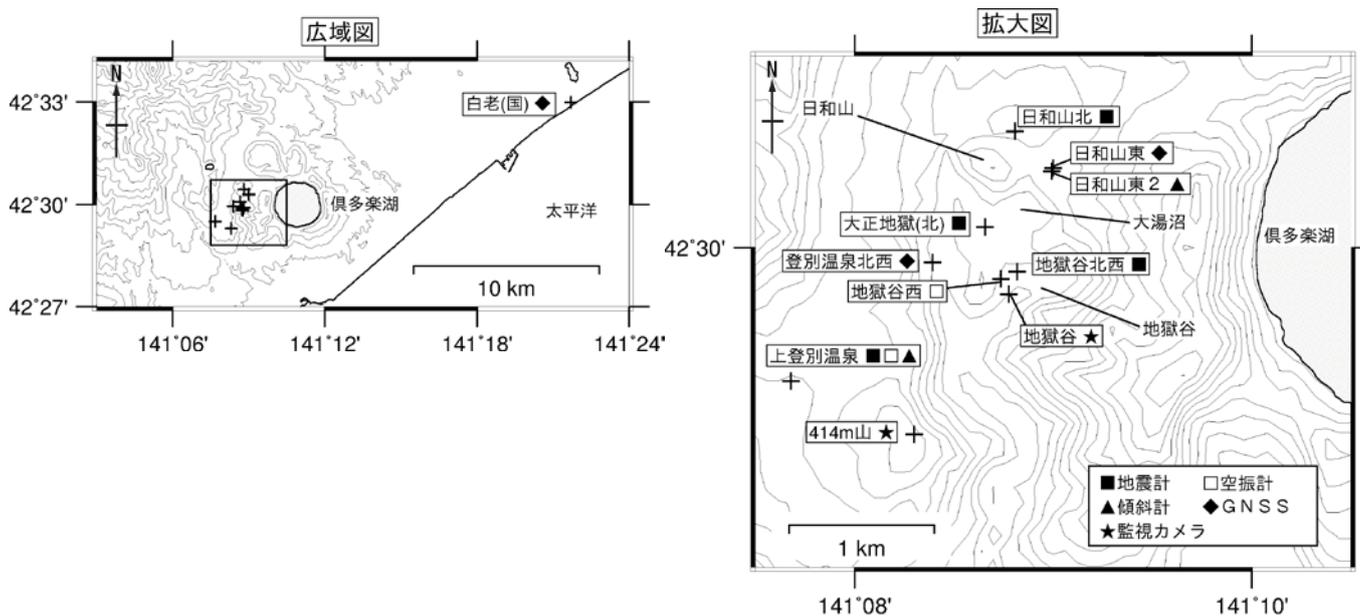


図4 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学